

山本さん一家

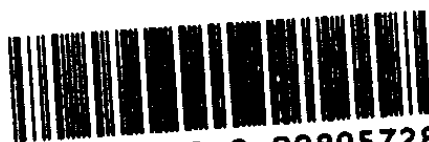
山本一家

八尾昌里 著



北京语言学院出版社

165423



科工委学院802 2 00805728

山本さん一家

八尾昌里 著

吉比呂 插图



北京语言学院出版社

(京) 新登字157号

山 本 一 家

八尾昌里 著

吉 比 吕 插图

*

北京语言学院出版社出版发行

(北京海淀学院路15号 邮政编码, 100083)

新华书店北京发行所经销

北京印刷一厂排版

北京市朝阳区北苑印刷厂印刷

开本787×1092毫米 1/32 4印张 69千字

1992年6月第1版 1992年6月第1次印刷

印数1—10000册

ISBN 7-5619-0165-8/H·118 定价: 2.00元

前 書

私わたくしの前まえに一冊いっさつの本ほんがあります。『日本人にほんじんの一いっ生せい』という題名だいめいの斎藤修一氏さいとうしゅういち（日本教育学会）が
お書きかになった外国人がいこくじんの為ための日本語にほんごのテキストで
す。日本人にほんじんが生まれて死ぬ迄までに体験するさまざま
な儀式ぎしき、行事ぎょうじ及びそれに関連する風俗ふうぞく、習慣しゅうかん、伝
統でんなどが一章いちしょうごとに簡潔かんけつに述べられています。日
本語にほんごを勉強べんきょうしている外国人がいこくじんにとっては、日本語にほんごの
習得しゅうとくと同時に日本人にほんじんそのものをも理解出来るとい
う正ただに一石二鳥いっせきにちょうのテキストです。しかし、強て難しいなん
を言えば、この著書ちよしょは十年程前じゅうねんほどまえに出版しゅっぱんされてい
ますので、中に述べられいる細こまかいデータ等など、多
少た現時点しょうげんじてんにそぐわない点てんが見受けられること
でみうす。そこで、一念発起いちねんはっきして、この本の形式けいしきを借り
て現代げんだいにマツチした本ほんを作つくってみようと思いたち
ました。

年中行事ねんじゅうぎようじに加えて、冠婚葬祭くわんこんそうさい、風俗習慣等ふうぞくしゅうかん古ふる

い伝統の中に生きる日本人の生活を書くことによ
って、又学校教育が現在かかえている問題を取り
上げることによって、外国人が日本人の全体像を
理解する手引ともなればと願ひ執筆致しました。

御承知の様に日本は小さな島国で単一民族で
す。しかし、東と西ではそれぞれお国柄も違いま
す。一般に関東地方と関西地方に二大別されます。
又同じ地域でも、各家には各家のしきたりがあり
ます。我が家は夫も私も関西出身ですが、それで
も尚互いの実家のしきたりに微妙な差がありま
す。しかし、いずれにしろ、日本人は皆似たよう
な体験を踏まえながら成長し、生活し、老いてゆ
きます。

私がこの本を書いた主な目的は、中国国内で日
本語を勉強している中国の学生にこの本を通して
もっと良く日本人の生活を知ってもらい、同時に
レベルの高い日本語をマスターしてもらいたい為
です。

又その外に、現在日本で学んでいる中国の留学
生にも参考になればという思いがありました。私は
何人かの留学生と付き合っていますが、彼等の多
くは日本人がどんな風に暮しているのかあまり理
解していないようですし、日本人はどんな風に一

II

生を送るのか、日本人の生活様式も分っていないように思います。彼等は日本で生活していますが、皆“蚊帳”の外に置かれています。私は彼等にもっと多くの日本人の暮らしの断面を紹介しようと思いました。

言葉の面から申しますと、この本は大体日本語を二年以上習った中級クラスの学習者を対象としています。主な学習目的として、日本独特の伝統行事に使われる特別な単語、読み方、いいまわしを習得出来るように、又現代の流行言葉、新聞テレビ等でよく使われる現代用語等も多く取り入れています。

この本は、便宜上、架空の山本さん一家という親、子、孫という三代の家族を設定し、十人の人物にそれぞれの世代を演じてもらいました。一章の長さを約千五百字位におさめ、全部で十三章と巻末に日本の祝祭日の付録を付け、更に多くの日本人の風俗行事を紹介しました。

日本語の漢字には音読と訓読があって、外国人には特にまぎらわしいものです。本書にはルビを付けて読み易くしました。

その他、中国語を勉強している日本人も閱讀出来るように日中対訳にしました。

申し遅もうれましたが、この本を書く様ように強つよく勧めすすて下くだされたのは北京大学の助教授張光璘先生です。又この本を書くに当あたって、張光璘先生には並なみ々ならぬお世話になりました。日中対訳ともなれば、私の中国語のレベルでは覚束ない面もあります。私の翻訳を生き生きとした中国語に直して頂なおいた張先生に心からお礼申し上げます。又計画の段階けいかくから加くわわって張先生と同様多くの適切なアドバイス、並びに対訳の最終チェックをして下くだされた神戸大学の中国人留学生繆偉群先生に心からお礼申し上げます。お二人とも私の翻訳した『サラダ記念日』に御協力下ごきょうりょくされた方々です。お二人の御協力かたがたがなければこの本は生まれなかつたと思ふいます。

又執筆に当しつぴつって、この外多くの方々に教おしえを請こいました。幼稚園の先生、高校の先生、キャリアウーマン、不動産屋のおじさん、定年退職なされた方等、皆様本当に御協力ありがとうございました。又巻末に記した多くの著書から貴重な資料を得えました。ここに深い感謝の念を捧げます。

最後になりましたが本書のイラストは私の尊敬するデザイナー吉比呂先生に御多忙の中御無理を言ごんげいって描えがいて頂きました。感謝感激かんしゃかんげきです。読者の皆

様の日本への親近感しんきんかんがイラストを通して一層深いっそうふかま
ることを祈いのりながら……。

1990年10月10日

神戸にて

八尾昌里

前 言

在我面前摆着一本书。这是由齐藤修一先生为外国人学习日语而写的教科书，书名叫做《日本人的一生》（日本语教育学会），内容是写日本人从生到死经历的各种各样的仪式、活动及有关的风俗习惯、传统等，每一章都写得很简洁。学习日语的外国人通过这本书不但能学好日语，同时还能理解日本人自身，这可真是一箭双雕的好教材。

但是，如果硬要挑剔的话，由于这本书是大约十年前出版的，因此里面有些数据跟现状已有出入。所以，我决心借这本书的形式写作一本与现状相符合的书。

我想写每年的定例活动，还有红白事、风俗习惯等，传统悠久的日本人的生活。与此同时，还想谈谈学校教育现存的问题，以便给外国人了解日本人的整体形象提供参考。

众所周知，日本是狭小的岛国，民族单一。但是，东方与西方却各有各的乡土习俗。一般可以分为关东地区与关西地区两大部分，即便在同一地区，各家还有各家的规矩。我丈夫和我都是关西生人，但是双方父母的家庭规矩也有微妙的差异。可是不管怎么说，每个日本人都是在这种大体相似的经历中成长，生活，以至衰老的。

我写这本书的主要目的是使在中国国内学习日语的中国学生能通过此书更好地理解日本人的生活，并掌握水平比较高的日语。

另外还有一个想法，就是给现在在日本学习的中国留学生提供一些参考。我接触到一些中国留学生，觉得他们有相当多的人不完全了解日本人怎么生活，不知道日本人一辈子是怎么度过的，不知道日本人的生活方式。他们虽然在日本生活，但都在“蚊帐”外面，所以我想向他们介绍更多的日本人的生活断面。

从语言方面说，这本书是以大约学习两年以上日语的中等程度学生为对象而编写的。主要的目的在于让学生掌握日本特有的传统活动里面用的特殊单词、读法、说法，并尽量采用现代流行语以及报纸上、电视里常用的现代用语。

为了叙述方便，本书虚构了山本先生一家——父母、子女、孙儿孙女三代，请他们十个人扮演各个世代的人物。每一章的长短大约 1500 字，一共 13 章。篇末还附上有关节日的附录，以便介绍更多的日本人的生活习俗。

日语的汉字有音读与训读之分，外国人别特容易混淆。本书给汉字注上假名以便读者容易阅读。

此外，本书采用了日汉对照的形式，学习汉语的日本人也可阅读。

我刚才忘记说了，热情劝我写作这本书的是北京大学副教授张光璘老师。在我写作这本书之际，承蒙张光璘老师的特别帮助。至于日汉对照，我的汉语水平有限，承张老师把我的译文修改为生动的汉语，对此表示由衷的感谢。此外，我要向神户大学的中国留学生缪伟群先生深表谢意。缪先生

从制定这项写作计划时就参与了这项工作，与张老师一样，提出许多恰当的建议，并且对两种文字的对照进行了最后的核对。两位都曾经在我翻译《沙拉纪念日》时帮过忙。如果没有这两位先生的帮助就不会有这本书。

此外，在写作这本书之时，我请教了许多人。有幼儿园的老师、高中教员、职业妇女、经营不动产的老板、退休的老先生等，大家都对我给予协助。谢谢大家。另从卷末所写的许多著书中也得到宝贵的资料。在此一并深表谢意。

最后再说一句话，该书的插图是我请我尊敬的设计师吉比吕先生画的。吉先生在百忙之中接受了我的不客气的请求，特意抽出时间来为我作图，对此我又激动又感谢。但愿通过这些插图，使读者更加深对日本的亲近之情……。

1990年10月10日

于神户

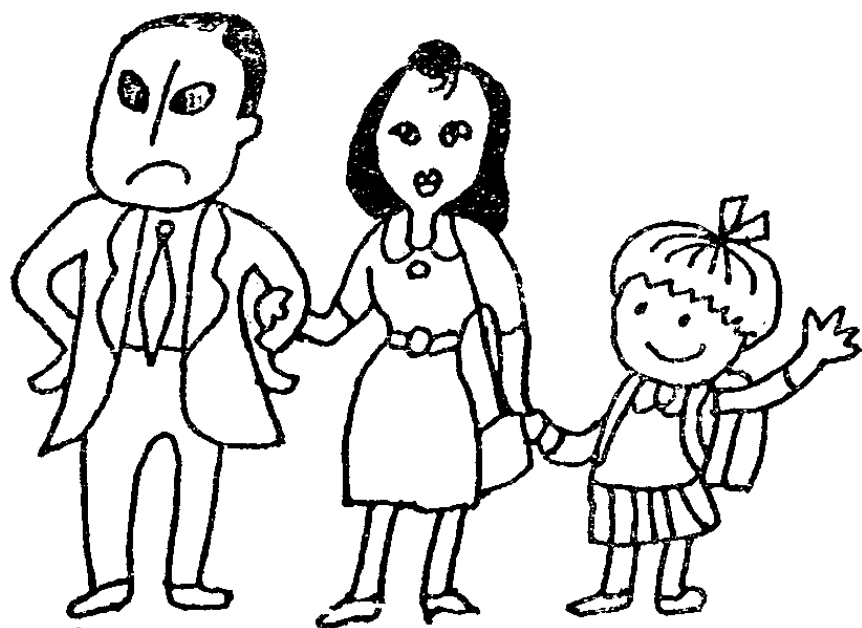
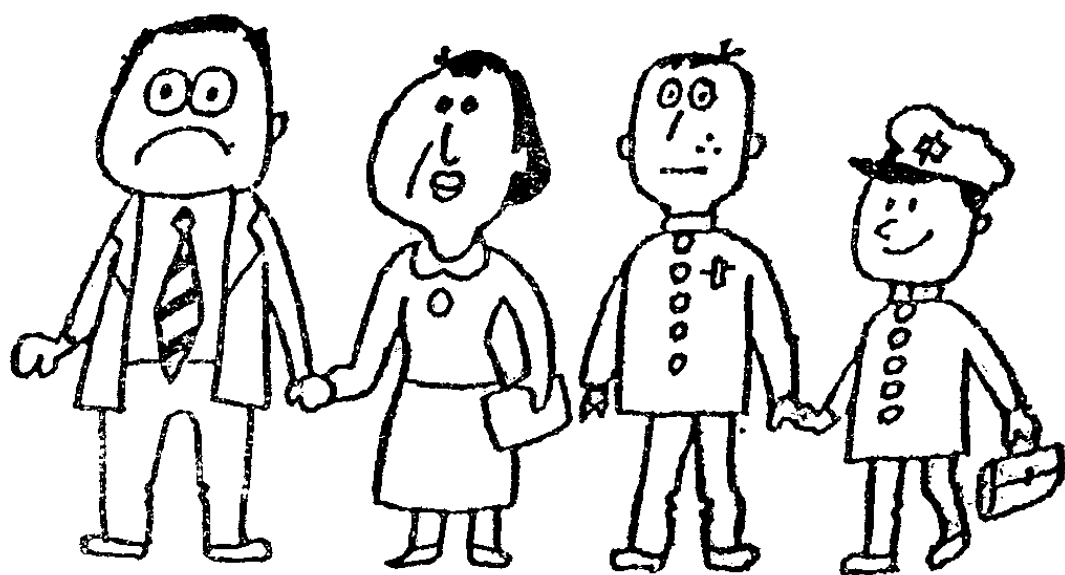
八尾昌里

山本さん一家

八尾昌里 著

山本家の家族構成

山本一郎	65歳	中小企業の専務取締役。
山本加代	62歳	一郎の妻，専業主婦。
山本康一	45歳	一郎の長男，会社員。
真由美	40歳	康一の妻，専業主婦。
昭男	18歳	康一の長男，高校生。
和男	13歳	康一の次男，中学生。
山本浩二	30歳	一郎の次男，会社員。
優子	23歳	浩二の妻 専業主婦。
安奈	1歳から6歳	浩二の長女，小学生。
山本美保	23歳	一郎の長女 大学生。



目 次

前書	(1)
第 一 章 山本家の人々	(1)
第 二 章 浩二の縁談——見合いと結納	(4)
第 三 章 浩二の結婚——結婚式と披露宴	(9)
第 四 章 安奈の誕生(一)——命名式とお宮参り	(14)
第 五 章 安奈の誕生(二)——お食い初め，初正月 初節句	(17)
第 六 章 安奈の誕生(三)——初誕生日と七五三	(22)
第 七 章 安奈の入園	(25)
第 八 章 安奈の小学校入学と和男の中学受験	(28)
第 九 章 和男の中学生生活	(32)
第 十 章 昭男の高校生活	(35)
第十一章 美保の大学生活	(38)
第十二章 康一の日常生活と住宅購入	(42)
第十三章 一郎の葬儀	(45)

付 録 日本の祝祭日 (48)

一 月	正月 成人式	(48)
二 月	節分 バレンタインデー	(50)
三 月	ひな祭り お彼岸	(53)
四 月	花まつり	(53)
五 月	端午の節句(子供の日)母の日	(55)
六 月	父の日	(55)
七 月	七夕祭 ^り	(56)
八 月	お盆 土用丑	(57)
九 月	敬老の日 月見	(57)
十 月	体育の日	(58)
十一月	文化の日 勤労感謝の日	(58)
十二月	お歳暮 クリスマス 大晦日	(59)

目 录

前言	(1)
第一章 山本一家	(65)
第二章 浩二的婚事——相亲与订婚彩礼	(67)
第三章 浩二的结婚——结婚典礼与结婚喜宴	(69)
第四章 安奈的诞生(一)——命名仪式与满月拜神	(71)
第五章 安奈的诞生(二)——婴儿初次吃饭仪式， 生后第一个正月与第一个节日	(73)
第六章 安奈的诞生(三)——周岁生日与七五三	(75)
第七章 安奈入幼儿园	(77)
第八章 安奈入小学与和男考初中	(79)
第九章 和男的初中生活	(81)
第十章 昭男的高中生活	(83)
第十一章 美保的大学生活	(85)
第十二章 康一的日常生活与买房子	(88)
第十三章 一郎的葬礼	(90)